

第3回八戸産学官連携推進会議 議事録

日 時 平成30年10月9日（火）13時45分～14時15分
場 所 八戸市庁本館3階 議会第二委員会室
出席者 小林 眞 八戸市長
福島 哲男 八戸商工会議所会頭
法官 新一 八戸学院大学学長・八戸学院大学短期大学部
長谷川 明 八戸工業大学学長
圓山 重直 八戸工業高等専門学校

以上5名

1. 開 会

○司会（八戸工業大学・高橋准教授）：

それでは、ただいまから、「平成30年度第3回八戸産学官連携推進会議」を開催いたします。まずもって、第2回会議を書面決議とさせていただいた件につきまして、お詫び申し上げるとともに、ご理解とご協力に対してお礼申し上げます。それでは、議事に入る前に本日お配りした会議資料を確認していただきたいと存じます。本日の会議資料は、①次第、②出席者名簿、③席図、④資料1第1回推進会議議事録、⑤資料2八戸産学官連携推進会議プラットフォーム基本方針、⑥資料3八戸産学官連携推進会議中長期計画（骨子案）となります。過不足等はありませんでしょうか。

○司会（八戸工業大学・高橋准教授）：

それでは、議事に入りますので、小林市長に進行をお願いしたいと存じます。

2. 第1回推進会議の議事録について

○小林議長（八戸市長）：

それでは、しばらくの間、議長を務めさせていただきます。まず、報告案件(1)の「第1回推進会議の議事録」について、事務局から説明をお願いします。

○事務局（八戸学院大学・田中教授）：

右上に資料1とございます書類をご覧ください。こちらは第1回会議の議事録でございます。まず、日時、場所、出席者が記されておりました、1ページの下から2ページにかけて、会議の設置要綱に関する審議結果を記載しております。具体的には、1ページ後段には設置の目的を、2ページにまいりまして、この会の組織のこと、あるいは会長、副会長をおくという点、さらには会議の開催のスケジュール等につきまして事務局から説明し、皆様から了承をされたことを記述してございます。次に2ページの後段からは、正副会長の選任とい

うことで、市長が会長となったこと、さらに副会長に福島会頭が就任されたことが記述されております。さらに、3 ページでございますが、今後の会議の運営に関する協議という点で、運営に関する基本事項というものを決めいただきましたので、その内容を記述しとります。まず、1 点目は会議を公開もしくは非公開ということでございます。これについては公開をするということでございます。2 点目は傍聴者は会議で発言することができないという点でございます。3 点目でございますが、会議における発言についてはですね、このように議事録として記録をし、公開するということになっております。このことにつきまして、当会議の動きについてはホームページ等ですねこの議事録を公表いたしますので、ご了承いただきたいというふうに思います。続いて、4 ページ以降に平成 30 年度協議内容として、複数回会議を行って中長期計画を策定していくということが合意されたことが記述されております。以上が第 1 回会議の議事録の概要でございます。

○小林議長（八戸市長）：

ありがとうございました。ただいまの説明に対してなにかご質問、ご意見はございますか。

（質疑なしの声）

○小林議長（八戸市長）：

質問等はないようですので、以上で報告案件(1)を終わります。

3. 副会長の選任について

○小林議長（八戸市長）：

次の報告案件(2)の「基本方針の策定について」、事務局から説明をお願いします。

○事務局（八戸学院大学・田中教授）：

右上に資料 2 と記載された資料をご覧ください。八戸産学官連携推進会議プラットフォーム基本方針というタイトルの資料でございます。この基本方針は、八戸の将来ビジョンを関係者が共有して、一丸となって、その実現に向けて取り組んでいくために定めるものございまして、今後、この基本方針に基づいて中長期計画を策定していくものでございます。この基本方針では、現状として、人口減少・少子高齢化が進む中で、生産年齢人口が減少してきているという点を挙げてございます。その中でも、3 ページの図表の前の文章で 15 歳から 29 歳までの人口を若者人口と定義して、より詳しく分析してございます。以上を踏まえ、次の 4 ページで、若者人口の減少が高等教育機関の学生数の減少を招くと同時にですね、地域経済を支える労働力の低下、あるいは、地域社会を担う人材の不足とつながっていくことを示唆し、そういう意味において、産業界、高等教育機関、地方自治体の三者が密接に関連する重要な課題であるというこ

とで、3の項目の(1)から(3)までをこの推進会議が取り組むべき主な課題として掲げております。そういうことを受けまして4ページの後段から5ページにわたりまして、「若い世代が地域社会の地域産業を理解し、持続的に生活できるまたは生活したくなる社会とまちづくり」というビジョンを掲げると同時に、若者人口を2025年までの中期目標として減少幅を2,000人まで抑制し、2045年の長期目標として増減を均衡させるということを目標と定めております。、これらを実現するために、次の5の項目では(1)から(6)に掲げる6つの指針を定めておりまして、次の6ページの6の項目では、この6つの指針と包括連携協定の連携事項を関係性を整理してございます。そして、次の7の項目では、今後の会議スケジュールを記載してございますが、本日の3回目以降も継続して会議を開催し、4回目を12月頃に、第5回目を2月頃に開催する予定としております。次に7ページの8の項目と最後の8ページの9の項目では、連携体制や協議・実施体制をそれぞれイメージ図として記載してございます。事務局からは以上でございます。

○小林議長（八戸市長）：

それでは、ただいまの説明に対して、ご質問、ご意見等はありませんでしょうか。

（質疑なしの声）

○小林議長（八戸市長）：

質問等はないようですので、以上で報告案件(2)を終わります。

4. 中長期計画（骨子案）について

○小林議長（八戸市長）：

続いて、審議案件の「中長期計画（骨子案）について」事務局から説明をお願いします。

○事務局（八戸学院大学・田中教授）：

資料3をご覧ください。中長期計画の骨子案でございます。こちらの内容は本日皆様方に議論し決定していただきたい内容でございまして、今後、事務局が中長期計画の策定作業を進めていく上で、全体の構成をそこに掲げさせていただいております。第1章ですね、この地域における現状ということですね。第2点目はそのなかでですねその共通する課題というものを先ほど基本方針の中でお話したように第1点から第3点目まで課題として選定をいたします。その課題の選定を受けまして、その後〇〇された将来ビジョンを掲げるとともに、将来ビジョンを具現化・具体化するための数値目標を定めてまいります。そして、今後の方向性としてはその将来ビジョンを実現するための各機関の取組むべき方向性というものを定めてまいります。第5章ではこの着実な推進のための進行管理の方法というものを定めてもらえるというところでござい

す。一応中長期計画の骨子案については以上でございます。

○小林議長（八戸市長）：

ただいまの説明に対して、ご質問等を伺うわけですが、この会議の設立趣旨は、産学官連携の中長期的な将来ビジョンを打ち出して、それに基づいて様々な連携事業を進めていこうということでございますので、この際、各委員から一言ずつでも結構ですので、何かご意見を発言していただきたいと思っております。それでは、圓山校長先生から順にご発言をお願いします。

○圓山委員（八戸工業高等専門学校 校長）：

本校で現在進めているのは、やはり地域へのリターン組というか、もちろんIターン、Uターン、Jターンといろいろありますが、本校独自の実際上ですね、やはり関東地区に若い子はやっぱり東京に行きたいということで就職しますが、いろいろな事情で戻ってくる場合もあります。そういう場合に地元企業の方、それからいろんな有力な地方の企業の方たちとご尽力を得ながらそういう方たちの情報を上手く接合して、関東地区から戻ってくるときには、それなりのスキルや知識、本校の卒業生もそれなりに就職等もようございますし、企業の評判もようございますのでそういう学生たちを企業の方にですねご紹介できれば移ってくるものもあっていいかと思っております。もちろん職業安定所という非常に重要な機関があって、そこで入るといいうのもあるんですけども、本校のOB会といいますか、同窓生とのネットワークを通じてそういうふうな橋渡しができればいいと思っております。そのためのいろんな組織をですね、作らせていただきたいということで先般八戸市の方々、それから福島会頭等にもですねご了解いただいて今準備を進めているところでございます。学校ではできないのでやはり別な財団のようなものを作ってその中の活動の一部にさせていただきたいと進めてございました。あと、その他もう1つは、今本校でいろいろ国際寮の準備とかですねさせていただいております。これももう少し長期的な話になりますが、やはり外国人の地域への導入というものの重要かなと考えておりまして、まだほんとに今立ち上がりのばかりなんですけど、やはり地域に外国人といってもチープワーカーではなくて、きちんとしたスキルをもった高等教育機関できちんと教育をした外国人を地域の企業の方に供給できるようなシステムはこれからできないのかなということをちょっと本校のほうで少し模索しているところでございます。これちょっとまだ模索中でというような具体的にどうこうというのはまだしばらく時間かかると思うんですが、そういうようなアクティビティをしているところでございます。以上が本校からでございます。

○小林議長（八戸市長）：

はい、ありがとうございます。次に法官学長からフィリピンプロジェクトのことに踏らせていただきながら、ご発言いただければと思います。

○法官委員（八戸学院大学 学長）：

それでは内部的なお話からさせていただきますけども、昨年学校法人としての姿勢を質の向上、それから法人内の連携、教育関係の連携を強化する。あるいは地域と連携の強化をする。4つ目は国際教育事業の拡大ということをおあげて、具体的な実践にはいった年でございます。十分周知はされてないと思えますけども、その中の国際事業に関しましてはフィリピンを中心に今拡大事業を展開していると。おかげさまで双方向の関係からは八戸、青森県からかなりの数が高校生を中心に現地の方へ英語の勉強に出かけるという体制が整ってきました。当初は2年ぐらい先にフィリピンからの留学生を迎える準備をしていたわけですが、もうすでに来年度介護に関する学科に入ってくる段取りになりました。そういうことで国際教育という部署が本学の国際教育という部署が東南アジアを中心にラオスだとか、タイのほうに一応拡大しようとする動きをしているところでございます。あわせて、中国からの5大学から今留学生派遣の要請がございましてその協議に今はいっているところで現地視察を来月控えております。いずれにしても、国際教育事業の展開が非常に広がりを見せていることが一つ現状でございます。

それから、最近特に議論をしているのはスポーツに関する議論でございますけども、なかなか課題もたくさんあるわけでございます。施設の問題だとか協議の問題、指導者を含めた問題を抱えておりますけども、今文科省が散しているスポーツ局のような、似たような内部にそういう構成はできないかと。従来はスポーツ学生は本学の地域からよりも県外というんですか、市外の学生が結構ございまして、北海道を含めまして遠くの地域からスポーツの学生が集まってきたら、そういうような対応のために宿舎が必要だったり指導者が必要だったりしてございますけれども、単なる競技というレベルから我々が持っている、大学が持っているその学術的な事柄をベースにしたより次元の高いスポーツを展開できれば将来に生きていく力を養えるんじゃないかと。卒業後の力強い生き方を期待した体制をとってあげるのいいだろうということで、大体骨子ができまして来年あたりからこういう部門の展開にはいたいと思っている、大体こんなところです。

○小林議長（八戸市長）：

ありがとうございました。次に長谷川学長からご発言をお願いします。

○長谷川委員（八戸工業大学 学長）：

私どもの新しい人材育成と言いますか、できるだけ地域で学習できる環境づくりという点では新しい海洋技術者育成というコースがこの春からスタートしています。実際に出口についてはですね、今の現状の中で海洋に限定されると難しい部分もあるんですけども、私たち将来という意味では海洋ということは欠かせないテーマだというふうな受け止めてましてそういう人材育成がスタートしています。それから、私どもの〇〇学科のほうではですね、地域づくりコースというのがスタートしてまして、今日もこれからいろいろ計画を進めていただくその中心が地域を興すという活動でございまして、これは従来の分野と少し異なった学習が必要ですし、さらには実践的な学習が必要だと。周辺

の地域の行政機関の協力もいただきながらですね、あるいは産業の方との関わりということで学生が指導を受けて新しい分野の人材育成というのがスタートしているというお話です。

今日の報告の中、とりわけ資料2の中ですね、この3ページにあります先ほど田中先生から紹介がありましたけれども、この中の①のいわばその18歳あるいは21歳を含めるのでしょうか、そういう人たちが大きく私どもから流出して行って、その人たちが②のところで少し戻ってきているような絵が描かれているように感じますけれども、こういうような出て行ったとしても戻ってくるとき、まあなかなか戻るといふことに対しての力がなかなか働いてないのが現状というふうな受け止める部分があるんですけれども、そもそも私どもの地域に優れた企業があってその多くの人材を求めていると現在私どもの大学もほぼ就職率という点では学生たちの希望の産業へというふうなことで進めさせていただいているんですけれども、いわばそういうふうな人材をせっかく地域の企業が求めてらっしゃるのに、出て行くという現状をですねぜひ何か私どものこれからの計画の中でですね、考慮いただきながら改善につながって行って、なおさらに②のようにしてですね、他の地区で学習をした方、あるいは経験を積まれた方が私たち八戸を選んでいただけるというようなことが強く生まれるようなそういうことをする計画策定がこれから進んでいくことをですね、期待して私も活動させていただければと思っております。以上でございます。

○小林議長（八戸市長）：

はい、ありがとうございます。人材の確保という点では一番切実だと思いますけれども、地元企業の代表ということで福島会頭をお願いします。

○福島副会長（八戸商工会議所 会頭）：

はい。先ほども市長さんに私の商工会議所のご要望を申し上げてきたところですが、その中にもやはり人口減少、若者の問題等が当然取り上げられましたけれども、先ほど圓山先生がおっしゃったその私から特にどの要望の中に入っているわけではないですが、外国人の問題をですね、実は取り上げてお話ししました。と申しますのはですね、実はこないだ県でですね水産振興委員会というのがございまして、そのご題目はですね、みなさんご存知の攻めの農林水産業ということで大きく看板を立ち上げて話を始めたんですが、私は冒頭その中ですね、攻めるということは鉄砲でいえば弾を詰めて撃つということになるだろうと私はこう理解しているんですけども、その弾になるべき八戸港の水揚げの定理量がですね非常に少なくてですね、これは世界的な面もあるかもしれないけども、とにかく八戸は水産のまちと言われている中であってその原料がないが為に仕事に結びつくのが大変難しいと、人手不足もさることながらまずそっちの方が先じゃないだろうかとそれを考えた場合にその原料を確保するために動く、私は自分の商売が漁船漁業で魚をとる商売ですけども、その船を運航する一般の乗組員は海外の人でも乗船できるんですけども実習生として、これを運航する肝心の船長、機艦長こういう人たちが運輸省の壁が厚いがために船を運航する資格をもっていながら乗れないと。今現在の八戸港の在籍してい

る船の運航している平均年齢をみるともう 60 を超えると、あと何年ももたないと。そうすると船の運航ができなくなると当然魚も取れない、こういうふうな結びつきになるもんだから、なんとしても一般の海外の人たちを乗せることもさることながら、そういう資格を持った人たちも乗せないと船そのものは動かないよと。こっちの方むしろ緩和してもらおうようなことを私たちの船が運航するのが、農林水産大臣というところから許可をもらって船を動かすことはできるんだけれども、船そのものを動かすのは運輸省からのそういった制約があって船を動かしているんだから、その辺をもう少しこれから考えていかないと。皆様方も学校の先生の立場にあるわけですけれども、水産学校をですね、青森県立水産学校ですね、120 人の男女ですけれども卒業する中であってですね、なんと 5 人か 6 人しか漁船に乗らないんですよ。120 人も卒業する中であってですね、水産高等学校という名前の中にあってですね、もちろん水産に従事する人も少ないわけですが、漁船に乗る人が 5、6 人しかないんですよ。その中で機艦長の資格持って乗るといって人がほんの一握り。これだったらですね、八戸で水産のまちですというふうに謳ってきたのがですね、とても通らなくなる。やっぱりそういうふうなことを考えると、この際今もう手遅れになってきているかもしれないけど、早いうちにそういった外国人の実習生、一般の乗組員だけじゃなくて、船を運航できる資格者も外人であってやれるんだというふうな仕組みをですね、国を動かして改めさせてもらえなければだめだというふうに私はそう思っていました。これを強くこれから皆さんと一緒にですね訴えていきたいなと思っております。

○小林議長（八戸市長）：

はい、ありがとうございます。それぞれご発言いただきました。私一言申し上げますけれども、この 3 ページの表で学校卒業してみんな首都圏に流れるというのがずっと継続しているわけですが、最近 30 代 40 代ですけれども、U ターンですね。目に見えて増えてきているような状況になってきています。それから相談が増えています。ですから、おそらく何かの壁にぶちあたってですね田舎に帰ろうかなと思っている感じも相当数ですねいるというふうにも思われます。そういったことにターゲットを絞りながらですね連携中枢都市圏の枠組みですけども、移住の促進というか、そういうこともある、今具体的にですね進めていけるように考えているところです。今それぞれご発言あったことをふまえてですね、この骨子案でありますけれども進めていただくことでよろしいでしょうか。それでは、この原案のとおりですね今後進めていただけたらと思います。事務局は次回会議に向けて本日審議した骨子を元に中長期計画(案)の策定作業を進めるようにお願いします。

5. その他について

○議長（小林市長）：

本日、予定していた案件は以上でございます。その他、何か事務局からありますでしょうか。

○事務局（八戸学院大学・田中教授）：

事務局から次回会議の開催について、ご案内いたします。次回会議は12月頃に開催し、本日も審議いただいた骨子につきまして具体的な内容を加筆した中長期計画(案)を審議していただく予定としております。日にちに近くなりましたら、改めて開催の御案内を差し上げますので、どうぞよろしくお願いいたします。以上でございます。

○議長（小林市長）：

委員の皆様、他にありませんでしょうか。なければこれで終了し、司会の方へ進行をお返ししたいと思います。

6. 閉 会

○司会（八戸工業大学・高橋准教授）：

それでは、これもちまして、「平成30年度第3回八戸産学官連携推進会議」を終了いたします。本日はどうもありがとうございました。